

Business Studies Abroad II・IV

对外经济贸易大学(中国・北京市) 1~3セメスター留学プログラムの案内

中国語でビジネス(経営・経済)を学び
希望者は企業実習を通じて現地ビジネスを学ぶ
日中ビジネスでの活躍を目指す留学プログラム



目 次

1. BSAⅡ・Ⅳ 対外経済貿易大学との交換留学へのいざない.....	2
2. 対外経済貿易大学への交換留学の特徴	2
3. 対象学生と学習モデル	4
3.1. 中国語初級レベルの皆さん 3 セメスター間留学	4
3.2. 中国語中級レベルの皆さん 2 セメスター間留学	5
3.3. 中国語上級レベルの皆さん 1～2 セメスター間留学	5
3.4. 英語開講の専門科目(経済・経営分野)	5
3.5. 企業実習(インターンシップ)	6
4. 留学と履修計画	7
5. 対外経済貿易大学と各学院の紹介	7
5.1. 対外経済貿易大学	7
5.2. 国際学院 (留学生教育を担当する組織)	8
5.2.1. 国際学院の紹介	8
5.2.2. 国際学院の各コースと開講科目	9
5.3. 国際商学院 (経営学部に対応)	11
5.3.1. 国際商学院の紹介	11
5.3.2. 国際商学院の学士課程 (国際学部課程を含む)	11
(1) 学士課程の概要	11
(2) 国際学士プログラムの概要	13
5.4. 経済学院 (経済学部に対応)	14
5.4.1. 経済学院の紹介	14
5.4.2. 経済学院の学科	14
6. 対外経済貿易大学が提供する経営経済分野の専門科目	16
(1) 英語開講専門科目	16
(2) 中国語開講専門科目	16
(3) 企業実習	18
① 企業実習に参加できる学生	18
② 実習先は、学生自身が主体的に探します	18
③ 実習開始から終了後の手続き	18
(ア) 両大学に相談し、履修条件と必要な手続きを確認する	18
(イ) 実習先を探し、受入条件を確認する	18
(ウ) UIBE の同意を得て、必要書類を準備する	19
(エ) 公安機関に実習加注を申請し、完了後に実習を始める	19
(オ) 実習できる期間と、変更時の注意	19
(カ) 実習後の証明書と、立命館大学での単位認定	20

1. BSA II・IV 对外経済貿易大学との交換留学へのいざない

对外経済貿易大学への交換留学は、中国語学習と経営・経済学の専門学習(中国語、英語、日本語による開講)を組み合わせ、日中ビジネスで活躍する人材の育成を目指すプログラムです。留学期間は1～3 セメスター(0.5・1・1.5 学年間)です。所定の条件を満たす希望者は、企業実習を選択科目として履修できます。自分の目標に沿った学習計画を立て、積極的に応募してください。

中国は、「世界のものづくり拠点」であると同時に、経済成長と富裕層や新中間層の消費市場が形成される中で、外資系企業と中国企業が「世界の市場」として販売競争を繰り広げています。日本にとっても、中国は重要な貿易・投資の相手国であり、日本企業の多くが中国を中心とするアジアの新興国市場で積極的に事業を展開しています。そのため、日中ビジネスを創造できる国際ビジネス人材が求められています。

ただ、日中ビジネスを創造できる国際ビジネス人材として活躍するには、単に中国での滞在経験や、日常会話レベルの英語・中国語力だけでは十分ではありません。ビジネスレベルの高度な中国語力と日中ビジネスの専門知識を駆使して、両国を架橋できることが必要条件でしょう。それには、中国の社会文化を深く現地体験し、中国経済や対外貿易、中国での企業経営を専門的かつ体系的に学習する留学プログラムに参加するのが近道です。

2. 对外経済貿易大学への交換留学の特徴

派遣先は UIBE 国際学院ですが、履修できる科目は同学院の科目に限りません。中国語の基礎学習から専門学習へと進むことを軸に、英語・日本語の経済・経営系科目も組み合わせられます。X1 査証を所持する学生は、居留許可の有効期間内に、国際学院の企業実習を選択科目として履修できます。

对外経済貿易大学の教育は、外国語運用能力と経営・経済の専門知識を結びつけ、国際経済・ビジネス分野で活躍できる人材を育成することに特徴があります。

留学生教育を担当する国際学院の公式案内には、中国語を学ぶ「基礎中国語コース」、ビジネスの現場に必要な中国語を学ぶ「ビジネス中国語コース」、中国の経済・貿易・金融・法律・社会文化を中国語で学ぶ「中国経済貿易研修コース」、外国語で学ぶ「中国ビジネス文化選択課程」などが紹介されています。中国語の上達に応じて、専門学習へ段階的に進むことができます。各コースの紹介は過年度の情報を含むため、開講状況や受講条件は留学する学期の案内で確認してください(第 5.2 節参照)。

経済学院と国際商学院の中国語開講の経済・経営系科目は、両大学が合意した履修管理規程に基づき、UIBE からの事前説明・科目情報の提供、学生による事前申請、関係部署との調整を経て履修します。実際に履修できる科目は、年度ごとの開講状況

によります（第 6 節参照）。

非学位留学生向けの英語開講の経済・経営系科目も履修できます。必要な英語力・学業成績の基準や能力証明は、当該年度の募集要項および UIBE の履修案内で確認してください。

外国語学院が大学院生向けに開講する日本語の経済・経営系科目も、立命館大学経営学部の派遣学生が履修できます。具体的な科目や登録方法は、当該年度の案内で確認してください。

X1 査証を所持する派遣学生は、居留許可の有効期間内に、国際学院が開設する企業実習科目を選択科目として履修できます。UIBE は実習に関する必要書類を発行し、居留許可申請時の手続きを支援します。また、必要に応じて、実習に関する情報提供および協力を行います。

開講組織等	言語	科目分野・コース名	受講条件・手続き(当該学期の案内で確認)
国際学院	中国語	基礎中国語 強化中国語 ビジネス中国語	中国語のレベル別クラス 中国語のレベル別クラス 中国語学習が 100 時間以上、または基本語彙 200～300 個習得
	中国語	中国経済貿易研修(中国語) ※開講状況は要確認。	新 HSK5 級の合格水準以上、または基礎語彙 3,000 語以上。
	英語	中国ビジネス文化選択課程	10 人以上で開講。外国語学院の日本語科目とは別の課程。
経済学院 国際商学院 ※国際合作交流処が手続き窓口	中国語	経済学分野の専門科目 経営学分野の専門科目	所定の履修条件を確認し、国際合作交流処への事前申請と同処による調整を経て履修。実際の科目は年度の開講状況による(第 6 節)。
経済学院 国際商学院等 ※登録方法は UIBE の交換留学担当に確認	英語	経済学分野の専門科目 経営学分野の専門科目	非学位留学生向けの経済・経営系科目を履修可。英語力・成績等は当該年度の案内で確認。科目情報は GEEC の Academics を参照(第 6 節)。
外国語学院	日本語	大学院生向けの経済・経営系科目 例:「日本経済」	RU-BA 学生も履修可。科目・登録方法は当該年度の案内で確認(改訂協定第 6 条)。
国際学院 ※UIBE の担当部署が手続きを支援		企業実習(選択科目) インターンシップ	X1ビザを所持し、居留許可の有効期間内に履修。UIBE は必要書類を発行し、居留許可申請を支援。実習先探しや実習注記等は第 3.4 節を参照。

3. 対象学生と学習モデル

<対象学生>

本プログラムの出願対象は、両大学が合意した所定の学修基準を満たす立命館大学経営学部の学生です。中国の経済や企業経営などを中国語や英語で学び、将来の日中ビジネスでの活躍を目指す、学習意欲の高い学生を対象とします。

具体的な応募条件は、当該年度の募集要項を確認してください。国籍、旅券、教育歴等に関して確認が必要な場合は、応募前に経営学部事務室へ相談してください。

<学習モデル>

専門科目を学ぶための中国語力をこれから身につける皆さんは、まず中国語の基礎学習を行います。中国語による経営・経済学の専門科目を 1 セメスター以上履修することを目指し、英語・日本語の科目も組み合わせて計画を立ててください。個別科目は事前申請・調整と開講状況を踏まえて決まります。以下は語学力に応じた学習モデルであり、応募資格や個別科目の履修を保証するものではありません。

3.1. 中国語初級レベルの皆さん 3 セメスター間留学

中国語レベル	初級レベル 中国語の基礎を学び、専門学習に向けて語学力を伸ばす段階。
留学期間	3 セメスター間（1.5 学年間）
学習内容	第 1 セメスター:中国語の基礎学習 第 2 セメスター:中国語と経営・経済学を組み合わせた学習 第 3 セメスター:経営・経済学分野の専門科目(中国語開講)の学習

中国語を高校や大学から学習し始めた**初級レベルの皆さんは、3 セメスター間(1.5 学年間)の留学をモデルとします。**まず、最初の 2 セメスター間で専門科目を学習できる高度な中国語運用能力¹を十分に修得し、その後の 1 セメスター間で経営・経済学分野の専門科目の履修を計画します。

具体的には、国際学院で、第 1 セメスターは基礎中国語コースで中国語の基礎を学び、第 2 セメスターはビジネス中国語コースでビジネス分野の中国語を学びます。語学力の向上を踏まえ、第 3 セメスターには中国語による経営・経済学の専門学習へ進む計画を立てます。国際商学院と経済学院の中国語開講科目は、所定の履修条件を確認し、国際合作交流処への事前申請と同処による調整を経て履修します(第 6 節参照)。

¹ 専門学習では、中国語で講義を理解し、専門書の読解、討論やレポート作成に取り組める運用力を目指します。個別の履修条件は UIBE の案内で確認してください。

3.2.中国語中級レベルの皆さん 2 セメスター間留学

中国語レベル	中級レベル ビジネス中国語を学び、専門科目の履修に向けて準備を進める段階。
留学期間	2 セメスター間（1 学年間）
学習内容	第 1 セメスター:中国語と経営・経済学を組み合わせた学習 第 2 セメスター:経営・経済学分野の専門科目(中国語開講)の学習

中国に長期間滞在経験のある皆さんや、日本国内の中華学校等で中国語による中等教育を受けたり、ご家庭で中国語を使う環境にあった皆さんで、**中国語が中級レベル²の場合は、2 セメスター間(1 学年間)の留学をモデルとします。**まず、最初の 1 セメスター間で専門科目を学習できる高度な中国語運用能力を十分に修得し、その後の 1 セメスター間で経営・経済学分野の専門科目の履修を計画します。

具体的には、国際学院で、第 1 セメスターはビジネス中国語コースを履修し、専門学習に必要な中国語力を高めます。第 2 セメスターには、中国語と経営・経済学を組み合わせた科目の履修を計画します。中国語開講の専門科目は、第 6 節の手続きに沿って事前に申請してください。

3.3.中国語上級レベルの皆さん 1～2 セメスター間留学

中国語レベル	上級レベル 中国語で経営・経済学分野の専門科目を学ぶことができる段階。
留学期間	1～2 セメスター間（0.5～1 学年間）
学習内容	第 1～2 セメスター:経営・経済学分野の専門科目(中国語開講)の学習

中国に長期間滞在経験のある皆さんや、日本国内の中華学校等で中国語による教育を受けたり、ご家庭で中国語を使う環境にあった皆さんで、**中国語が上級レベル³の場合は、1～2 セメスター間(0.5～1 学年間)の留学をモデルとします。**留学中は、中国語と経営・経済学を組み合わせた科目を受講します。

3.4.英語(日本語)開講の専門科目(経済・経営分野)

英語と成績の要件を満たせば、国際学院、経済学院、国際商学院が提供する英語開講の経済・経営分野の専門科目を履修することができます。

また、外語学院の大学院生向けの日本語開講科目「日本経済」も履修可能です。

² ここでいう中級は、ビジネス中国語を学び、専門科目の履修に向けた準備を進める学習段階です。出願基準の点数・判定時点は募集要項を確認してください。

³ ここでいう上級は、中国語で経営・経済学分野の専門科目を学べる学習段階です。出願資格と個別科目の履修条件は、それぞれの正式案内を確認してください。

3.5.企業実習(インターンシップ)

X1 査証を所持する派遣学生(BSAIV・2 セメスター以上)は、居留許可の有効期間内に、UIBE 国際学院が開設する企業実習科目を選択科目として履修できます⁴。ただし、学生自身が企業実習先を主体的に探し、必要な諸手続きも行う必要があります。企業等での職場体験を、日中ビジネス分野でのキャリア形成に繋げてください。

BSA II・IV 対外経済貿易大学への交換留学履修モデル

中国語レベル	出願基準 の確認	派遣期間	中国留学						実習条件	企業実習
			言語レベル	<学習内容> 中国語の基礎学習	言語レベル	<学習内容> ビジネス中国語学習 専門科目履修準備	言語レベル	<学習内容> 中国語で経営経済分野を学ぶ		
初級	中国語/英語・GPA の出願基準は、当該年度の募集要項で確認。	1.5年	初級	国際学院 中国語 国際商学院、経済学院、外国語学院 経済・経営学分野の専門科目(英語・日本語開講)	中級	国際学院 ビジネス中国語+ 国際商学院、経済学院、外国語学院 経済・経営学分野の専門科目(英語・日本語開講)	専門学習へ	国際商学院、経済学院、外国語学院 経済・経営学分野の専門科目(中国語開講+英語・日本語開講)	所定の手続き	国際学院の企業実習(選択)
中級		1年		→						
上級		0.5~1年		→		→				

※専門科目は所定の申請・調整を経て履修します。企業実習は X1 ビザ所持者が居留許可の有効期間内に選択履修する科目です。学習段階とは別に、必要な手続きを確認してください。

<中国語学習を主目的とした 1~2 セメスター間の留学を希望する皆さん>

中国語学習を中心に計画する場合は、BSA の他の派遣先や全学交換留学も含め、目的に合うプログラムを検討してください。具体的な募集・履修条件は当該年度の案内を確認してください。

※全学交換留学の派遣先大学の例：対外経済貿易大学、南開大学、上海交通大学、国立台湾師範大学、国立中山大学など。

<中国国籍留学生の皆さん>

国籍・所持旅券等による受入条件は、派遣先大学やプログラムによって異なります。経営学部事務室または所属キャンパスの国際教育センターに相談してください。

⁴ X2 査証(BSA II・1 セメスター)では、企業実習(インターンシップ)を行うことができません。

4. 留学と履修計画

対外経済貿易大学で取得した単位は、帰国後の申請に基づき、立命館大学経営学部で単位認定を行います。本学以外（留学先大学や国内他大学等）で取得した単位の認定上限や対象科目は、学生本人に適用される経営学部の履修規程等に従います。留学前に経営学部事務室で確認してください。

単位認定は、科目の内容・水準、授業時間数、成績等に基づいて審査します。UIBEの単位数が、そのまま同じ数の本学の単位になるわけではありません。留学前に履修予定科目と認定の見通しを相談し、留学中はシラバス、時間割、成績証明書、実習内容・時間数の証明書類等を保管してください。

※帰国後の単位認定は、本学の所定の申請・審査を経て決定します。

外国留学単位認定に関わる授業時間（参考）

※下表・計算式は参考です。適用される認定基準、科目区分・端数処理は、経営学部事務室で確認してください。

認定単位数＝1回の授業時間(分)×週の授業回数×科目の開講期間(週数)÷基準授業時間数

科目種別	基準授業時間数
講義・演習	675 分 (1 単位)
外国語・演習	1350 分 (1 単位)
企業実習・実験	2025 分 (1 単位)

立命館大学の単位として認定される単位数の上限は、**60単位**です。

※大学コンソーシアム等で受講科目の単位認定がすでに行われている場合は、その認定済み単位数を前述した上限単位数から差し引いた単位数までしか、新たに認定されません。

5. 対外経済貿易大学と各学院の紹介

5.1. 対外経済貿易大学

対外経済貿易大学は、北京市朝陽区惠新東街 10 号に位置しています。中国の経済・ビジネスを学ぶとともに、現地の社会や文化に触れる留学先です。通学や市内移動、買い物などの生活情報は、UIBE が提供する生活案内で確認してください。店舗や交通事情は変わるため、過年度の情報だけで判断せず、渡航前と到着後に必要な情報を確認しましょう。



対外経済貿易大学 (University of International Business and Economics: UIBE)

は、1951年に創立された高級商業幹部学校を前身とします。1953年に北京對外貿易専科學校へ改称し、1954年には中国人民大學の對外貿易専攻が合流して北京對外貿易學院となりました。1984年に現在の名称へ改称し、2000年には中国金融學院と統合しました。中国語と専門知識を結びつけて学ぶ国際的な教育を展開しています。



1951年の創立以来、對外經濟貿易大學は、經濟、經營、法学、外国語などの分野で教育・研究を發展させてきました。国際貿易、金融、国際法、企業經營、ビジネス外国語などを特色としています。大學本部の公表によれば、2025年12月31日現在、在校生は1万7,000人余り、来華留學生は160の国・地域からの2,300人余りです。

對外經濟貿易大學は国際交流にも力を入れており、大學本部の公表によれば、2025年12月31日現在、62の国・地域の397の大學・機関と協力交流關係を築いています。こうした国際的なつながりは、同大學の教育と研究の特徴の一つです。

出典：UIBE「學校簡述」（掲載日：2025年12月31日、2026年9月30日閲覧）

<https://www.uibe.edu.cn/1951/xxgk/xxjs/index.htm>

5.2. 国際學院（留學生教育を担当する組織）

5.2.1. 国際學院の紹介

国際學院は、對外經濟貿易大學の外国人留學生の募集・教育・管理等を担当する組織です。留學生の募集案内、入学・学籍管理、教学教務、ビザや日常生活に関する業務などを担い、基礎中国語、ビジネス中国語などの語学プログラムや、中国の經濟・文化に関する研修課程を紹介しています。立命館大學經營學部の學生は同學院を派遣先としますが、中国語開講の經濟・經營系科目の事前説明・情報提供と履修申請の窓口は、国際合作交流處です。

大學本部の公表によれば、2025年12月31日現在、UIBEには160の国・地域から2,300人余りの来華留學生が在籍しています。学位取得を目的とする留学と、語学・専門科目等を学ぶ非学位の留学は区別されます。本交換留学では、中国語運用能力と經營・經濟の専門知識を結びつけ、多様な背景を持つ學生と学ぶ機会を活用してください。

国際學院の公式サイト(日本語) <https://sie.uibe.edu.cn/ry/index.htm>

※各コースの紹介も掲載されています。以下は2021年の公式紹介等を基にした参考情報です。開講状況・授業時間・受講条件は、留学する学期の案内で確認してください。

5.2.2.国際学院の各コースと開講科目

(1)基礎中国語（月曜から金曜まで午前のみ授業、20 時限/週、16 週/学期）

基礎中国語プログラムは初級・中級・上級の三つに分けられ、さらに各等級には3つの水準別クラスがあり、各クラス15～20人で、総合、リスニング、スピーキング、リーディングの課程があります。聞く、話す、読む、書く等の言語技能訓練を通して、学生は全面的な中国語コミュニケーション能力を高めることができます。

(2)強化中国語（開講状況・授業時間は要確認）

これまでの本案内では、集団指導と個人指導、授業内の学習と授業外の実践を組み合わせる集中型のプログラムとして紹介されています。集中的なトレーニングを通じて、中国語運用能力の向上を目指します。

中国語を集中的に使う学習環境で、母語への依存を抑えながら、中国語でのコミュニケーション能力を高めることを目指します。実際の開講と交換留学生の受講可否は、UIBE に確認してください。

(3)ビジネス中国語（月曜から金曜の午前のみ授業、20 時限/週、16 週/学期）

ビジネス中国語は対外経済貿易大学が重点を置く学習プログラムの一つであり、同大学の特色と専門性を生かしています。このプログラムはⅠからⅤと等級が分かれ、各等級に応じて、ビジネス中国語、ビジネス中国語スピーキング、ビジネス中国語リスニング、ビジネス中国語リーディング等の課程を設置しています。各班は15～20人で構成されています。

本プログラムは中国と外国のビジネスや文化交流のニーズに応えるため、設計されており、すでに一定の中国語能力を持ち、中国や国際ビジネスにおけるビジネス知識やホットトピックに関心のある学生に適しています。

権威あるビジネス中国語教科書を選び、知識、実用性、コミュニケーション能力を兼ね備えた柔軟な授業方法を採用しています。

(4) 中国ビジネス文化選択課程（外国語授業） ※当該学期の開講状況は要確認。

このプログラムでは、様々な外国語での受講が可能で、主に中国経済、貿易、金融、マーケティング、経営およびこれらと密接に関連する政策や規制、社会環境、文化的伝統、国際協力などを体系的に学びます。すべての科目は、対外経済貿易大学やその他中国主要大学のシニア教授によって教授されており、関連する専門的なニーズを持つ海外の学者、ビジネスマン、留学生に適しています。

①経済学授業（英語）

以下は2021年の公式案内に掲載された科目例です。最低開講人数は同案内では10人とされていますが、留学する学期の取扱いを確認してください。

秋学期	春学期
1. 中国経済と貿易システム	1. 中国経済と貿易システム
2. 中国経済社会の発展と課題	2. 国際経済協力：中国の経験
3. 中国的人資源管理	3. 中国マーケット
4. 中国環境保護	4. 中国の対外貿易と対外直接投資
5. 中国伝統文化とリーダーシップ行動	5. 多国籍企業マネジメント
6. グローバル経済における中国	6. 国際金融：システム、市場、投資機会
7. 国際企業中国マーケティング戦略のケーススタディ	7. 中国ビジネス文化と消費者行動
8. 中国経済の移行、構造変化と景気循環	8. 企業戦略とビジネスモデル
9. 中国コーポレート・ガバナンス	9. プロジェクトマネジメントとオペレーション
10. 中国ビジネスマネジメント	10. 国際投資
11. サプライチェーンマネジメント	11. 中国と WTO
12. 金融市場と金融機関	12. 国際紛争と危機管理
13. 国際戦略	13. 独占禁止とその規制及び競争政策
14. 中国経済のトランスフォーメーション	14. 現代中国
15. 中国ビジネスの概要	15. クロスカルチャー視点から見た中国の文化と社会
16. 異文化間コミュニケーション：理論と実践	

②経済学授業（日本語） ※当該学期に開講されているか否か要確認。

国際学院では、中国経済講座（一） 中国経済講座（二）が設定されています。

(5)中国経済貿易研修コース ※当該学期の開講状況は要確認。

中国経済貿易研修では、中国の経済、貿易、金融、法律、社会文化などの理論と事例を体系的に学びます。高いレベルの中国語能力を持つ学生は、比較的短期間で関連分野の最新かつ包括的な知識を習得することができます。AクラスとBクラスの2つのクラスがあり、Aクラスは秋学期、Bクラスは春学期に開講されます。

受講するには、中国語能力が HSK5 級の合格水準以上に達している、または 3,000 語以上の中国語基礎語彙を習得していることが必要です。

中国経済貿易研修のカリキュラム例（2021 年の公式紹介）

A 班	B 班
1. 中国対外貿易と WTO	1. 中国経済ホットトピックス講演会
2. 中国ビジネス・マーケティング・マネジメント概論	2. 中国為替マネジメント
3. 中国金融概況	3. 中国対外貿易法
4. 中国経済概論	4. 中国対外貿易実務
5. 多国籍企業マネジメント	5. 中国・海外投資概論
6. 高級ビジネス中国語Ⅰ	6. 高級ビジネス中国語Ⅱ
7. 経済・貿易紙閲読Ⅰ	7. 経済・貿易紙閲読Ⅱ

5.3.国際商学院（経営学部に相当）

5.3.1.国際商学院の紹介

国際商学院は博士・修士・学士という三段階の学位授与資格を有しています。経営管理学の博士課程（一級学科）を1つ、会計学・企業管理・技術経済及び管理の3つの博士課程（二級学科）を設置しています。経営管理学博士研究員流動ステーションも設置されています。修士課程では経営管理学の一級学科修士学位授与権を有し、企業管理・会計学・技術経済及び管理の3つの学術修士専門課程を設けています。学院では、経営管理専門職修士（MBA）、エグゼクティブ MBA（EMBA）、会計専門職修士（MPAcc）、監査専門職修士（Maud）の4つの専門職修士プログラムを提供しています。学部課程では、経営管理、会計学、マーケティング、財務管理、人的資源管理、起業管理の6専攻を設置しています。

出典：国際商学院「学院紹介」（2026年9月30日閲覧）。学位取得課程の紹介です。

https://bs.uibe.edu.cn/ibsnew_xygk/xyjs.htm

5.3.2.国際商学院の学士課程（国際学部課程を含む）

以下は2013・2014年等の過年度情報を含み、交換留学生の履修要件とは異なります。

出典：同学院「本科项目（含国际本科项目）」を参照して翻訳・編集（2026年9月30日閲覧）。

https://bs.uibe.edu.cn/ibsnew_jxxm/bkxm.htm

(1) 学士課程の概要

対外経済貿易大学国際商学院は1982年の創立以来、海外の先進的な教育システムと教育理念を全面的に導入し、東西の優れた点を融合させ、広く長所を取り入れてきました。グローバル化の視点のもと、教育目標とカリキュラム体系の設計、科学研究の実施、教員の採用、学生の募集を行い、企業の国際経営とグローバル競争への対応を重点的に支援しています。国際的なビジネス人材育成の法則を絶えず探求する中で、同学院はカリキュラム教育、人材育成、科学研究、ケース開発、コンサルティングサービスなど多方面で著しい発展を遂げてきました。

同学院の過年度の学士課程紹介では、経営管理学、人的資源管理学、会計学、マーケティング学、財務管理学、中仏2+3共同教育プログラム（ランス）の6専攻を開設し、当時の在籍学部生は1,300人余りと紹介されています。同紹介では、2008年以降の入学選抜における実績にも触れられています。現在の専攻構成は、学院の最新の案内を確認してください。

国際商学院は学部教育を重視し、グローバルな視野を持ち、社会的責任感を備え、ビジネス専門知識と実践能力を兼ね備えたエリート人材の育成に力を注いでいます。重点研究拠点、教育実験区、研究センター、仮想学科研究プラットフォーム、「211プロジェクト」などのインフラを基盤に、「国際志向、地域密着、知行合一」という教育理念を掲げています。

「国際志向」は、学院が世界を見据え、海外の先進的な教育システムや教授法を積極的に導入することを求めます。「地域密着」は、学部教育が中国の状況下で、国内企業や学生の個性的なニーズと緊密に結びつき、徐々に学院独自の教育特色と方法を確立すべきことを提唱しています。「知行合一」は、学生が書物に縛られることなく実践を活用し、理論的基盤が堅固で身体面でも健全で、開拓・革新精神、国際的戦略的視野、意思決定・対応能力、実践操作能力を備えた高度な経営管理人材を育成することを強調しています。

この教育理念に基づき、学院は基礎が厚く、複合型で国際的な人材育成を基本方針とし、海外の先進的な教授法の導入を奨励するとともに、中国の教育特色を融合した授業を展開しています。バイリンガル授業、ケーススタディ、モデルシミュレーションを堅持しつつ、様々な施策による教育実験と改革を積極的に模索しています。2012年春学期より、学院は2学年にわたるカリキュラム品質保証システムの構築を進め、国際基準に適合した学習目標、シラバス及び評価細則を策定しました。広範な調査に基づき、イノベーション・起業教育を専門教育及び公共基礎教育のカリキュラム計画に効果的に組み込み、多層的で立体的なイノベーション・起業教育カリキュラム体系を構築しました。

教育計画には「起業管理」「イノベーション理論とデザイン」「起業理論と実践」「グローバル起業理論と実践」などの科目を新設しました。さらに、モバイル授業や企業ゲスト講師招へい活動を積極的に推進し、実習拠点の整備を重視。実習拠点建設計画を策定・発展・改善し、学生と企業の交流プラットフォームを構築しました。2013年には、同学院はネスレ、北京汽車（BAIC）、カーギル投資とそれぞれ実習基地を共同設立しました。同紹介では、当時の実習拠点数は9か所とされ、デロイト、ネスレなどの有名企業と良好な協力関係を築いています。

1982年の創設以来、同学院は学部教育の充実に取り組んできました。以下は、公式紹介に掲載された2013・2014年等の過年度の実績です。同学院の学部生は数多くの世界的な学生コンペティションで優秀な成績を収めています。2013年には、在籍学部生が国家級賞41件、省・部級・市級賞8件を獲得。多数の卒業生がMIT、デューク大学、ロンドン・ビジネススクールなどの国際トップスクールから合格通知を得ています。2014年度卒業生の各専攻別平均就職率は90%以上に達し、平均2社以上の内定を獲得。卒業生は国内外の著名金融機関、コンサルティング会社、多国籍企業、大型国有企業、政府機関、研究機関などに幅広く就職しています。同学院卒業生は実践能力に優れ、優れたチームワークと革新精神を備えており、企業に迅速に溶け込み、仕事に積極的に取り組む姿勢が業界から高く評価されています。

国際商学院の専攻設置と学位授与（過年度の紹介）

- ※ 経営管理専攻（グローバルマネジメント実験クラス）（4年制・経営学学士）
- ※ 経営管理専攻（ランスポロジェクト）（「2+3」中仏経営学学士ダブルディグリー）
- ※ 人的資源管理専攻（4年制・経営学学士）

- ※ 会計学専攻（4年制・経営学学士）
- ※ 財務管理専攻（修業年限4年、経営学学士）
- ※ マーケティング専攻（グローバルマーケティング分野）（修業年限4年、経営学学士）

（2）国際学士プログラムの概要

以下は学位取得を目的とする学生の課程紹介であり、RU-BA 交換留学生の履修要件ではありません。

国際商学院の留学生学士プログラムは、中国語授課プログラムと英語授課プログラムで構成されます。中国語授課学部プログラムには経営管理、マーケティング、会計の3専攻が、英語授課学部プログラムには経営管理とマーケティングの2専攻が含まれます。留学生学部プログラムは、中国に留学する外国人学生が国際的な経営視野と革新意識を備え、多国籍企業の経営運営に従事し、国際企業マーケティングやグローバルマーケティングに精通し、会計・財務管理などの業務能力を有する専門人材となることを目指しています。

留学生学部プログラムは国際的な教育理念のもと、各プログラムのカリキュラム設計と構造において絶えず革新を続けています。留学生学部生はケーススタディを通じ、積極的に授業への参加を促され、重要な理論を習得します。同時に、社会実践、専門実習、企業見学、ビジネス調査などの活動を通じて視野をさらに広げ、実際の問題解決能力を育成します。

国際商学院の留学生向け学部プログラム（中国語/英語）は、科学的な教育理念に基づき、一人ひとりの能力に応じた指導を行い、国際的な複合型人材の育成を目標として、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカなど各国からの留学生にビジネス教育を提供しています。

対外経済貿易大学は2010年、留学生向けの全英語授業による国際学部プログラム（International Undergraduate Program, IUP）を開設しました。IUPプログラムの学生は、2年間の教養教育を終えた後、各自の専門選択と研究方向に基づき、経済学、国際貿易、企業管理、マーケティングなどの各専門分野を擁する学部・学科において、2年間の専門課程を学びます。同紹介では、国際商学院がIUPプログラムの学生向けに経営管理学とマーケティング学の2専攻を開設しています。IUPプログラムの経営管理学専攻およびマーケティング学専攻の学生は、3・4年次に国際商学院において必修科目36単位、選択科目18単位、実習及び実習報告書8単位、ならびに卒業論文作成を履修します。

IUPプログラムは国際的な教育理念のもと、各プログラムのカリキュラム設計と構造において絶えず革新を続けています。担当教員は授業においてケーススタディを活用し、学生の積極的な参加を促すことで重要な理論の習得を図るとともに、学生は社会実践、専門実習、企業訪問、ビジネス調査などの活動を通じて視野を広げ、実践的な問題解決能力を養います。

5.4.経済学院（経済学部に相当）

5.4.1.経済学院の紹介

以下は過年度の学院・学位課程の紹介を整理した参考情報です。組織改編前の情報を含み、教員数・課程構成等は当該年度の案内で確認してください。

経済学院は、国内外で広く高い評価を得ている学院です。1954年に対外貿易経済学科を創設し、1984年には全国で唯一の国際貿易学博士課程設置機関となり、1994年に経済学院が設立されました。同学院は、大学の一流学科である応用経済学および開放型経済学科群の主要な建設単位であり、応用経済学の一級学科博士課程および博士研究員流動ステーションを有しています。主に国際貿易学、金融学、産業経済学、財政学、地域経済学、運輸経済・物流、法経済学、エネルギー・低炭素経済学、人口資源・環境経済学などの分野の建設と人材育成を担っています。

学院は学科の整備、人材育成、科学研究、社会サービス、国際交流・協力などの分野で国内トップレベルを維持し、中国の国際経済貿易分野における最重要の人材育成拠点および研究拠点です。教員陣は充実しており、専任教員115名（博士号取得率100%）、上級職種の割合は80%、海外博士号取得教員は約30%を占め、年齢構成が合理的で教育背景が多様、中堅・若手教員を主体とし、学界で大きな影響力を持つ国際性の高い優秀な教員チームを形成しています。国内外の一流学術誌『中国社会科学』『経済研究』『管理世界』、American Economic Review、Journal of Political Economy、Journal of International Economics、International Economic Review、Review of Financial Studies、The Rand Journal of Economics、Journal of Econometrics、Journal of International Business Studiesなどにおいて高水準の論文を発表するとともに、国家社会科学基金や国家自然科学基金などの国家級・省部級研究プロジェクト、企業の委託研究、国際機関の研究プロジェクトを数多く担当しています。同学院は一貫して、高い学術的影響力と特色ある人材育成方針により、全国から優秀な学生を集め、高水準・高品質な就職を実現し、中国及び世界に向けて開放型経済、貿易、金融、ビジネスの分野における多くのエリート人材を育成してきました。

過年度の学院紹介には、7つの学科として、国際貿易学科、金融学科、国際運輸・物流学科、国際ビジネス・協力学科、財政・税務学科、エネルギー・低炭素経済学科、電子商取引学科が挙げられています。

近年、経済学院は着実な歩みで、国際的に著名で特色ある高水準の研究型学院へと発展を続けています。

5.4.2.経済学院の学科

2025年3月に関連分野の資源を統合して、経済学院(SOE)が設立されました。

参考:経済学院「学院简介」<https://soe.uibe.edu.cn/xygk/xyjj/index.htm>

過年度の課程紹介では、国際貿易、国際ビジネス、金融、国際運輸・物流、経済学など、幅広い分野の教育・研究が紹介されています。学部課程では、国際貿易、金融、物流管理、経済学(優等学士実験クラス)、財政、税務、経済と金融の7つの専攻を基盤とし、「第13次五カ年計画」期間中に国際ビジネス専攻を新設し、越境 EC 実験クラスを開講しました。大学院教育においては、国際貿易学、金融学、産業経済学、財政学、数量経済学、運輸経済・物流、西洋経済学、人口・資源・環境経済学の8つの学術修士課程、国際ビジネス、金融、税務の3つの専門職修士課程、ならびに国際貿易学、金融学、産業経済学、財政学、数量経済学、地域経済学、法経済学、西洋経済学、人口・資源・環境経済学の9つの博士課程募集専門を設置しています。同時に、デジタル貿易学科における学士・修士・博士一貫教育プログラムの整備を積極的に進めており、一定の進展を遂げています。留学生教育においては、中国学生と同様の中国語による専門教育に加え、英語による教育プログラムを構築しています。これには経済学、国際ビジネス、金融、物流の4つの学部専門課程、国際貿易学、国際ビジネス、金融、物流の4つの修士専門課程、ならびに国際貿易学、産業経済学、金融学の3つの経済学博士専門課程が含まれます。

同学院の応用経済学一級学科は、国家級重点学科である国際貿易学の構築を中核とし、国際貿易学における国内トップの優位性を維持しつつ、金融学、産業経済学、数量経済学・財政学の全面的な発展を図るとともに、地域経済学、労働経済学、マクロ経済学、発展経済学、エネルギー経済学などの分野も一定の発展を遂げています。2016年、経済学院はUIBEの応用経済学分野の代表機関として教育部第四回学科評価に参加し、評価においてAランクを獲得しました。2022年、UIBEの応用経済学分野は再び教育部の「双一流」建設学科リストに選出されました。2018年には、同学院が情報学院・統計学院と共同で北京高等教育機関ハイエンド・先端学際分野「デジタル貿易」を申請し、助成を獲得しました。UIBEの経済学・計量経済学は、2020年QS世界大学学科ランキングにおいて世界301-350位にランクインしました。同紹介は2017年以降の推移にも触れていますが、これらは過年度のランキングです。同時期に、UIBEの社会科学総合分野のESIランキングは世界トップ1%に入りました。経済学院は、UIBEの応用経済学分野の構築において主導機関として重要な役割を果たしてきました。学院ではこれまでに20以上の研究センター/学院を設立しており、国際経済学研究センター、エネルギー経済研究センター、中国奢侈品研究センター、リース研究センター、外国直接投資研究センター、中国国際低炭素経済研究所、国際ビジネス研究センター、サプライチェーン研究センター、中国国際ブランド戦略研究センター、中国消費経済研究院、世界保健機関タバコ規制・経済政策協力センター、青雲環境・社会的責任研究センターなどが含まれます。

学院は、全国大学国際貿易学科協力グループ常設事務局、全国国際ビジネス修士(MIB)専門学位教育指導委員会事務局長機関、教育部高等教育経済・貿易類専門教学指導委員会事務局などの業務を継続して推進するとともに、首都経済貿易大学と共同で北京市経済・貿易類専門群の創設を主導し、北京市地方大学の経済・貿易専門建設を支援し、北京市内の姉妹校との連携・交流を強化し、プラットフォーム構築と資源共有を推進しています。

6. 对外経済貿易大学が提供する経営経済分野の専門科目

(1) 英語開講専門科目

非学位留学生向けの英語開講の経済・経営系科目を履修できます。具体的な科目、対象課程、登録方法は、Global Exchange and Experience Center (GEEC) の Academics > Course List 等で確認してください。

<https://geec.uibe.edu.cn/ywsy/academics/index.htm>

英語開講の経営・経済分野の専門科目の例

※以下は過年度の科目例です。科目名・開講学院・対象課程・個別の履修条件は、当該年度の科目案内で確認してください。

2025 年春学期の科目例（参考）

●国際商学院開講

- ・ Marketing ・ Corporate Finance ・ Data, Models, and Decisions
- ・ Strategic Management ・ Consumer Behavior ・ Marketing Channels
- ・ Advertising and Promotion ・ Management Accounting
- ・ Chinese Economic Law ・ International Business Management
- ・ International Business and Economics ・ Advanced Corporate Finance
- ・ Strategic Management for IMBA ・ International Business Management
- ・ Financial Statements Analysis ・ Supply Chain Management

●経済学院開講

- ・ Economic Foundation of Business Studies ・ International Business Theory
- ・ Financial Markets ・ Econometrics with Software Skills
- ・ International Trade Research ・ Global Strategic Management
- ・ Logistics Practice in China ・ Seminar Series on Chinese Economy
- ・ International Business Negotiation

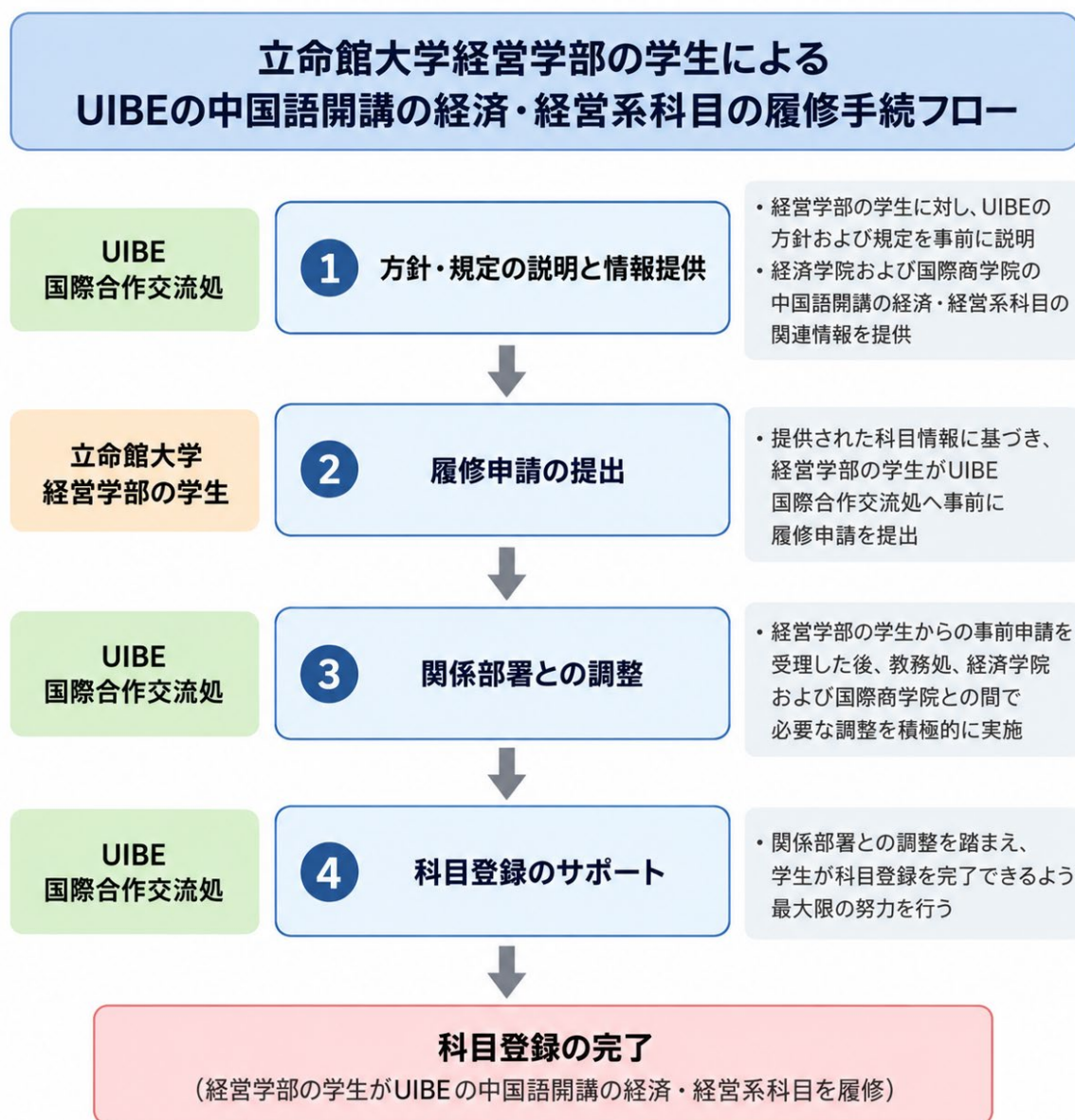
●国際学院（SIE）

- ・ Economics Transformation of China
- ・ International Economic Cooperation : The Case of China
- ・ Transnational Corporation Management
- ・ China's Culture and Society from Cross-cultural Perspectives
- ・ Belt and Road Initiative

(2) 中国語開講の専門科目(経済・経営分野)

経済学院と国際商学院が中国語で開講する経済・経営分野の専門科目を希望する場合は、両大学が合意した「RU-BA 学生の中国語開講の経済・経営系科目の履修管理規程」に基づいて手続きを行います。

まず、UIBE 国際合作交流処から UIBE の方針・規定の事前説明と両学院の科目情報の提供を受け、学生はその情報に基づいて、同処へ事前に履修申請を提出します。申請受理後、同処は教務処・両学院との必要な調整を積極的に行い、学生が科目登録を完了できるよう最大限の努力を払います。実際に履修できる科目は、当該学院の年度ごとの開講状況によります。申請期限、提出方法、登録結果の確認方法は、事前に同処へ確認してください。



※国際商学院・経済学院の中国語開講専門科目/外語学院・大学院向け日本語開講専門科目の開講科目のシラバス(2025 年度版)

https://ritsumeij365-my.sharepoint.com/:f/g/personal/mmori_ba_ritsumeijac_jp/IgDFZL_dqeTXRK4hNAW37EHnAWudoCnVNGQ-OYRlJJZkpYs?e=Dpf0s4

(3)企業実習

学生交換協定に基づき、X1 査証を所持する立命館大学経営学部の学生は、居留許可の有効期間内に、対外経済貿易大学(以下、UIBE)国際学院の企業実習科目を選択科目として履修できます。UIBE は、実習に必要な書類を発行し、居留許可に関する手続きを支援するとともに、必要に応じて実習に関する情報提供や協力を行います。

ただし、学生自身が実習先を探すこと、大学で履修・実習の手続きを行うこと、公安機関で実習に必要な手続きを行うことが必要です。また、企業から受入れの承諾を得ただけでは実習を開始できません。以下の内容を確認し、両大学の担当窓口にご相談しながら準備を進めてください。

① 企業実習に参加できる学生

企業実習は、2 セメスター以上の交換留学に参加し、X1 査証を取得する学生を対象としています。1 学期のみの交換留学で X2 ビザを所持する学生は、企業実習には参加できません。

また、X1 査証を取得しただけで、企業実習が認められるわけではありません。実際に校外で実習を行うには、UIBE の同意を得たうえで、「学習類居留許可」に実習先や期間などを記載する「実習加注(実習に関する追加注記)」の手続きを行う必要があります。

② 実習先は、学生自身が主体的に探します

企業実習は、通常の授業のように、受入企業や実施日程があらかじめ一律に用意されているものではありません。希望する学生に応じて個別に実習を調整し、選択科目として扱う仕組みです。

実習先企業への連絡や応募は、学生自身が主体的に行うことが基本です。UIBE から必要に応じて情報提供や協力を受けられますが、大学が全員の实習先を決めたり、希望する企業での受入れを保証したりする仕組みではありません。関心のある業種や仕事内容、実習を希望する時期を考え、早めに準備を始めてください。

③ 実習開始から終了後の手続き

(ア) 両大学に相談し、履修条件と必要な手続きを確認する

企業実習を希望する場合は、まず立命館大学経営学部事務室の国際担当窓口と、UIBE 国際合作交流処に相談してください。UIBE 国際学院での企業実習科目の取扱い、学内申請の方法、実習できる時期、必要書類などを確認し、その案内に沿って準備を進めます。UIBE が必要書類の発行と手続き支援を行います。具体的な申請様式や受付時期は、企業との日程調整を進める前に、国際合作交流処担当窓口で確認してください。

(イ) 実習先を探し、受入条件を確認する

学生自身が企業に連絡・応募し、受入れの承諾を得ます。その際には、企業名、実習場所、開始日と終了日、仕事内容を明確にしておきましょう。実習先企業には、後の申請に必

要となる、実習への参加に同意する書類または実習契約書の発行についても相談してください。

(ウ) UIBE の同意を得て、必要書類を準備する

実習先と内容が具体化したら、UIBE の担当窓口に応請し、実習への同意と必要書類の発行を受けます。北京市の公開案内では、実習加注の申請に、主に次の書類が必要とされています。

書類	主な内容
本人が準備する基本書類	有効なパスポート、申請書・証明写真、宿泊登記の証明書など
UIBE が発行する意見書	実習先の名称、実習期間、業務内容、および学生の実習参加に大学が同意する旨を記載した中国語の書類
実習先企業の同意書または実習契約書	学生の基本情報、所属大学、実習期間、業務内容を記載した中国語の書類

必要書類の最終的な一覧、書式、原本・写しの扱いについては、UIBE および申請先の案内で確認してください。居留許可の新規申請や延長を同時に行う場合には、追加書類が必要になる場合があります。[北京市国際版ポータルサイト](#)

(エ) 公安機関に実習加注を申請し、完了後に実習を始める

UIBE の支援を受けながら、学生が北京市公安局の出入境管理機関に「実習加注」を申請します。大学の同意と必要書類をそろえたうえで、居留許可に実習先や期間などを追加してもらう手続きです。

実習は、居留許可への「実習加注」が完了してから開始してください。企業の受入承諾、UIBE の同意、公安機関への申請書類の提出だけでは、実習を始めることはできません。手続きが完了していない段階で実習開始を求められた場合は、自分だけで判断せず、UIBE の担当窓口にご相談ください。

(オ) 実習できる期間と、変更時の注意

企業実習を履修できる期間は、「居留許可の有効期間内」です。これには、授業期間中に加えて、期末試験が終わった後の長期休暇も含まれます。

ただし、居留許可が有効であれば、その期間中いつでも自由に実習できるという意味ではありません。実習は、大学が同意し、実習加注で認められた実習先・期間の範囲内で行う必要があります。休暇中の実習を希望する場合も、その期間を含めて事前に相談・申請してください。

実習先を変えたい場合や、実習期間を延長したい場合は、変更前に UIBE へ連絡し、必要な手続きを確認してください。自己判断で別の企業の実習に参加したり、認められた期間を超えて実習を続けたりしないでください。

(カ) 実習後の証明書と、立命館大学での単位認定

UIBE は企業実習に関する証明書を発行し、実習の総時間数を証明したうえで、立命館大学が単位数を計算・認定する取扱いとなります。UIBE で実習を行えば、自動的に立命館大学の単位になるわけではありません。

単位認定を希望する学生は、実習を始める前に、認定条件、必要な証明書、提出書類、申請時期を立命館大学経営学部を担当窓口で確認してください。実習終了後は、UIBE に必要な証明書の発行を依頼し、立命館大学で所定の単位認定手続きを行ってください。

